

## 自己評価報告書

平成23年3月31日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(B)(海外学術調査)

研究期間：2008～2011

課題番号：20402032

研究課題名(和文) 医療BSCの導入目的・成果と医療政策への寄与に関する研究  
～医療リテラシー向上

研究課題名(英文) Research into healthcare BSC implementation goals, outcomes and its contribution to healthcare policy - aiming for improved healthcare literacy

研究代表者

高橋 淑郎 (TAKAHASHI TOSHIRO)

日本大学・商学部・教授

研究者番号：00211342

研究分野：医療経営学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：医療BSC、成果測定、医療政策、Sustainable BSC、ヘルス・リテラシー

## 1. 研究計画の概要

医療界でBSCが導入され、世界各国で導入目的、導入範囲、導入意図が異なるようになってきた。また、その成果も戦略との関係で評価することが必要になってきた。さらに、病院単体での利用から医療政策立案と実行にBSCを利用する国々も増えてきた。そこで、それらの利用範囲や意図を明確にした後に、医療政策での地域や住民の医療リテラシー向上にBSCがどのように関係することができるのか、また、病院がBSCを利用する際に地域住民のヘルス・リテラシー向上に寄与できるのか、そのメカニズムと成果を比較検討することで、わが国での医療政策立案と実行について有意義な方法を示し、伝達することで、国や自治体の医療政策に寄与したい。

## 2. 研究の進捗状況

カナダのオンタリオ州の医療政策としてのBSCの導入の背景、プロセス、現在の課題、各病院のBSCと保健省のBSCとの整合性などについて、州の総責任者、実務担当者、CIHI(Canadian Institute health Information)というケベック州を除いたカナダ全州の医療関連のデータを収集、加工し分析する組織のデータ分析者、オンタリオ州病院協会の担当者に面談し、インタビューを分析した。

日本とカナダ・オンタリオ州とブリティッシュ・コロンビア州のBSC導入済みで実際に運用している病院に対して、オンタリオ州で10病院、ブリティッシュ・コロンビア州で5病院、日本で10病院に対しインタビューおよびアンケート調査を行った。

University of North Carolina at Chapel hillの研究者と医療BSCの北米と日本での研究や論文の分析を行い、その変遷を明らかにした。

昨年、台湾の為恭記念病院でアンケート調査のプレテストを行い、国立台湾大学の医療BSCの研究者と政策的なBSCの使用を議論した。

台湾用の確定したアンケート調査票は、研究分担者の劉慕和准教授が翻訳を終了させて、昨年、7月と12月に台湾で合計10病院でインタビューを行い、アンケート調査を依頼し、8病院が回収済みである。

イギリスの研究者にイギリス国内の病院でのBSCの利用について調査。同じく、イタリアの研究者に、イタリア、特に、トスカナ地方での医療政策と医療の成果測定に関してインタビューを行った。

以上が、現在までの進捗の概略である。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

- ・ 日本、カナダ、台湾での調査病院で、おおむね予定通り調査票の回収が進んでいる。
- ・ 3カ国のBSC導入意図、成果、成果測定などに関する比較表の作成がおおよそ予定通り進捗している。
- ・ 広範囲な文献サーベイにより医療BSCの北米の趨勢を明らかにした。
- ・ 広範な文献サーベイにより日本での医療BSCの趨勢を明らかにした。
- ・ カナダ・オンタリオ州における政策としてのBSCについてその生成、発展、運用課題および現状を明らかにした。

- ・ カナダ・オンタリオ州での個別病院のBSCの状況を、急性期病院、長期療養型病院、リハビリテーション病院、カナダ赤十字から分離したカナダ血液センターなどでインタビューを行った。
- ・ カナダ・オンタリオ州で医療政策実行のためにBSCの原型を作った、オンタリオ病院協会、トロント大学の研究者へのインタビューとディスカッションを行った。
- ・ CIHIのデータ分析担当者へのインタビューを行った。
- ・ インタビューの成果を、日本（2）、カナダ（4）、台湾の病院（3）BSCのケース分析をすでにまとめてある。
- ・ 日本での医療BSCの利用に関して、これまで継続して調査してきた結果をまとめ、一昨年までのまとめは完了し昨年の調査まとめをおこなっている。
- ・ 日本での医療BSCの有効性に関して統計学的に明らかにした。
- ・ 台湾での医療におけるBSCの趨勢を明らかにしつつある。
- ・ インタビューをすべてテープ起こしして、調査票の回答と比較しながら検討しつつある。
- ・ イギリスでの医療BSCに関して、インタビューを行った。
- ・ イタリア・トスカーナ地方の医療の成果測定について、インタビューを行い、BSCとの関連でまとめている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

本年は、これまでのアンケートによる調査票調査およびインタビューの結果を深く、かつ関連性を考慮して分析し、追加資料の収集を行う。また、調査票未回収の有力病院の院長へ回答の督促をカナダ分は、カナダから行う。台湾分は、台湾から行う。さらに、カナダでのこれまでの研究から出てきた様々な課題を、より深く再度の調査を短時間に効率的に行う。さらに、アメリカの研究協力者によって文献での医療BSCの趨勢と特色を把握したので、その分析フレームを使用して、日本および台湾での分析を行い比較検討する。また、台湾の病院の現地調査とアンケートの依頼を増加させる。さらに、ドイツでSustainable BSCを研究している研究者の論文を洗い出し、BSCからSustainable BSCへの進化を迫ることで、医療BSCへの応用を考え、さらに戦略的CSRの利用を視野に入れて研究を進める。これらは4月から10月に実施する計画である。本年度中にすべてのアンケート結果のデータ入力と分析、インタビューのテープ起こし、同日本

語訳を完了させる。この研究では、BSCの導入の程度、導入意図、期待成果と実行された成果を明らかにし、それらの成果が実際に医療政策にどの程度関与し、寄与したかを明らかにする。それをSustainable BSCへの進化およびヘルス・リテラシー向上への方法につないでいく予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔図書〕（計1件）

高橋淑郎編著(2011)『医療バランスト・スコアカード研究 経営編』生産性出版に収録。

「戦略実践のフレームワークとしてのBSC」（高橋淑郎 pp. 1-57）

「医療政策としてのカナダ・オンタリオ州のBSC」（高橋淑郎、Brown, Adalsteinn. D., Lemieux-Charles Louise, pp. 295-340.）。

「日本の病院におけるBSCの利用成果に関する実証的分析」（高橋淑郎、北村世都、青木武典, pp. 371-398.）。

「為恭記念医院(台湾)のBSC導入事例」（劉慕和, pp. 341-356.）